

## 読売新道山行報告

日時：8月11日前夜発 8月12日～15日

メンバー：CL会員外 H田、平野、O田

天候：12日晴れ時々曇り、13日曇りのち雨、14日曇り時々晴れのち雨、15日晴れ

行程：一日目 6：30 扇沢発 トロリーバス 7：20 黒4ダム発 11：00 平の小屋着 12：00 平の渡し 14：00 奥黒部ヒュッテ着

二日目 4：50 前泊地発 12：20 赤牛岳 13：30 幕営地着

三日目 4：40 前泊地発 6：30 水晶岳 7：30 水晶小屋 11：00 野口五郎小屋 13：30 烏帽子小屋着

四日目 4：30 前泊地発 7：20 高瀬ダム

北アルプス裏銀座コースと後立山連峰の間にどっしりと横たわる赤牛岳は、どちらのコースからも、とても目を引く存在だろう。今回は長年の憧れだった赤牛岳に至る読売新道を、知り合いのN山岳会夏合宿に便乗させていただき、辿る事が出来た。

前日18時に千葉を出発。参加メンバーの内一名が体調不良で急遽不参加となる中、お盆初日の夕方に敢えて出発する事で帰省ラッシュを回避する事ができた。扇沢でも下山した車の空きスペースがポツポツあり、一番上の市営無料駐車場に停められた。23時扇沢着。明日からの奮闘を祈って軽く乾杯後、軒先で仮眠。

一日目：5時30分に切符売り場に並ぶ。先行者は10名ほど。無事にトロリーバス始発1号車に座れたが、バスは7台用意して、6時30分始発に乗り切れない乗客がいるほど混んでいた。黒4ダムサイトからは次のロープウェイに並ぶ人々を横目に、ダム遊歩道方面へ向かう。一ヶ月前には、このロープウェイに乗って剣岳に向かっていたんだなあと感じ無量になる。

これまでダムから下流に歩いた事はあるが、上流に歩くのは初めてだ。ダム沿いの道はうわさ通り木製ハシゴのアップダウンが続く、なかなかハードなコースだった。50分歩いて10分休憩するというルーティーンを正確にこなしながら、コースタイム通りに平の小屋に到着。船の定員は10名と書いてあるが、上の廊下に向かうパーティが多く、どう見ても10名以上待っている。早めに船着き場に行き、無事12時の渡し第一便に乗船できた。途中交差縦走をしていたN山岳会メンバーと行き違いながら、13：30分奥黒部ヒュッテに到着。ここまで運んできた丸々1個のメロンを沢で冷やして祝杯を上げた。



平の渡しの気合いの入った兄ちゃんと上の廊下パーティ　奥黒部ヒュッテテントサイト

二日目：3時起床4時50分発。前日は標高1,500mの水平移動だったが、今日は一気に2,864mの赤牛岳に登る読売新道のスタートだ。読売新道は、逆の水晶岳から下るケースが圧倒的に多い。逆コースはそれだけハードなのだろう。このコースに水場は一切無いので、最低1.5日分の水を携行する必要がある。前日までの給水量を考慮して、予備を含め7リッターの水を持つ。荷物は20キロを越えずっしり重い。この日、最初は日差しものぞめたが、途中からシトシト雨となり、逆に登りやすい気候となった。標高2,600mを越えるまではひたすら樹林の登りが続く。恐らくここまでは江戸時代の奥山廻りのお役人集も来なかったのではないかと、巨大なブナやモミの原始林の間を縫う道に癒やされる。樹林帯を抜けると何度かのアップダウンの後、赤牛岳に到着した。天気良ければ左右の雄大な山並みを楽しめるはずであったが、今日は重荷を背負ってひたすら幕営地を目ざす行程だった。事前の情報によると、温泉沢ノ頭付近に幕営適地があるらしいが、我々はかなり手前に泊まった。7月にはチングルマとシナノキンバイの一大お花畑であったろう場所横の素晴らしいフラットなザレ場だった。



赤牛～、雨～

三日目：夜中じゅう降り続いた小雨とガスは、出発の頃から上がり始めた。進むにつれ、右に薬師から剣岳までの後立山連峰、左に烏帽子岳・野口五郎岳が連なる裏銀座、後ろに昨日まで辿って来た赤牛岳に続く稜線、前方の水晶岳右に高天原・白山、左に槍・穂高・笠ヶ岳の稜線が全て臨める様になった。まさに北アルプスの真ん中にある素晴らしい体験！今日はこの天空の回廊を、今見えている烏帽子岳まで堪能出来ると思うと気持ちが弾む。

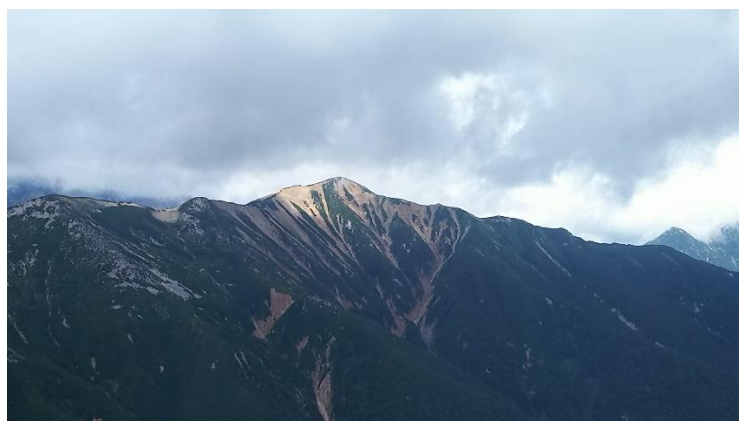


薬師岳をバックに「信号トリオ」

読売新道からの水晶岳、槍ヶ岳

重たい荷物もなんのその、バシバシと写真を撮りながら大量の登山者で賑わう水晶岳に到着した。ここからはかなり気楽な裏銀座コース。頻繁に出てくる山小屋や沢山の縦走者と挨拶を交

わしながら烏帽子キャンプ場まで到着した。ところでN山岳会の食事は妥協が無い。基本は共同食料で、晩ご飯は前菜、メイン、副菜が付く。参考までに挙げると、初日スティックサラダ、バジルソース、茄子のマヨネーズ焼き、豚角煮。二日目ツナサラダ、茄子とピーマン・タマネギのコンビーフ焼き、バジルスパゲッティ、クリームシチュー。三日目鶏ささ身・揚げ麺・豆サラダ、茄子入り麻婆春雨、野菜と鶏肉カレーサフランライス。これらを男性担当が用意してくださり、ちば山も男性グルメが活躍しているなあと思ひ出深かった。



野口五郎岳より赤牛岳を臨む



夕食前菜、茄子のしぎ焼き&サラダ

四日目：本日は下山のみ。今まで同様3時起床で4:20分に出発したおかげで7時過ぎに高瀬ダムに到着。途中唐沢岳から燕までの稜線と、烏帽子岳から蓮華岳へと続く山並みを朝焼けの中堪能しながらブナ立尾根を後ろ髪引かれながら下った。ちょうど待っていてくれたタクシーで扇沢に戻り車を回収。朝7時から営業している大町温泉薬師の湯でたまった汗を流し、渋滞前の高速を一路千葉に向かった。





烏帽子小屋のお花畑



ブナ立尾根からの唐沢岳と餓鬼岳

感想：読売新道縦走、この言葉に憧れを持ったのはもう 10 年ほど前であったろうか。毎年楽しいクライミングや沢の計画に紛れ、つい後回しになっていたこの縦走コースに、ひよんな事からチャレンジする事ができた。快く同行させてくださったならしの山の会の方々に感謝です。結果的にベストな天候、毎日美味しいごはんとお酒を素晴らしい山並みの中、堪能出来たのは、陽気な同行メンバーと山の神様、留守番の旦那様のおかげでした。心より感謝します。